



流・Ru

所在地： 福井県 福井市
 主要用途： 専用住宅
 構造： 木造在来軸組
 規模： 地上 1階
 敷地面積 1,460.93 m²
 建築面積 74.52 m²
 完成： 2006.06

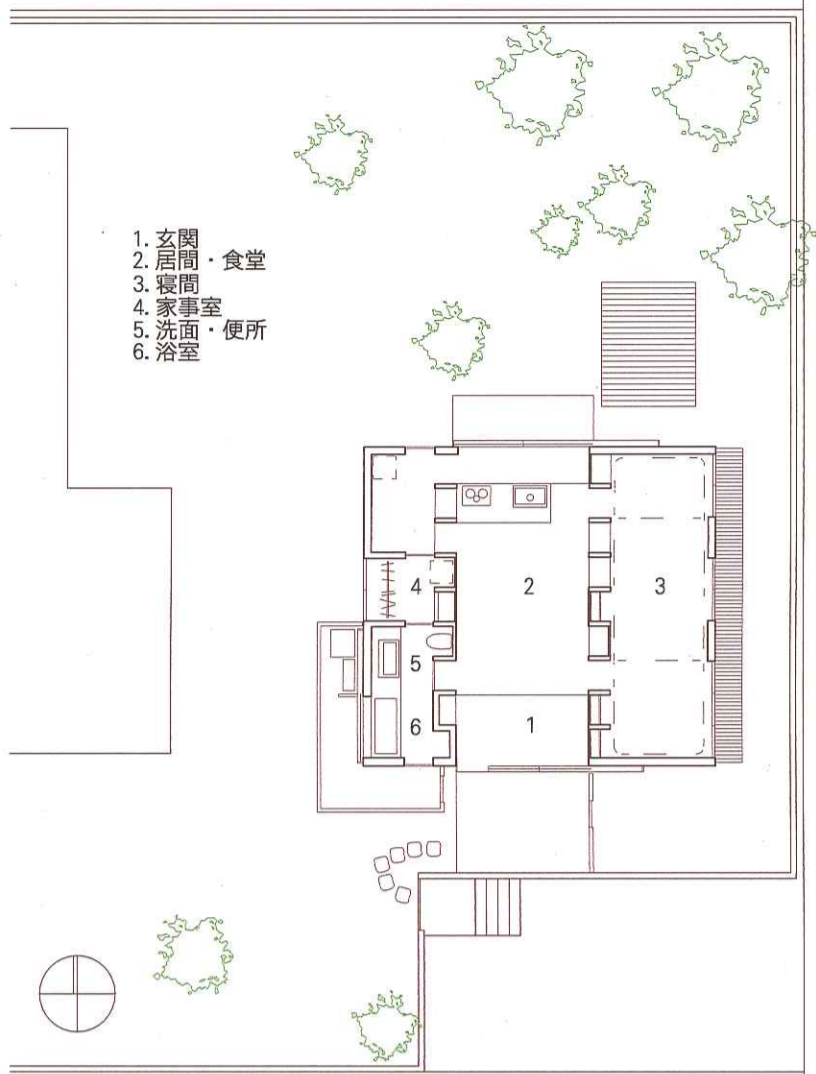
外部仕上げ

外壁： 唐松南京下見張り OS
 屋根： ガルバリウム鋼板葺き
 開口部： アルミサッシ/木製サッシ
 LOW-E ペアガラス
 テラス： 米杉すのこ張り

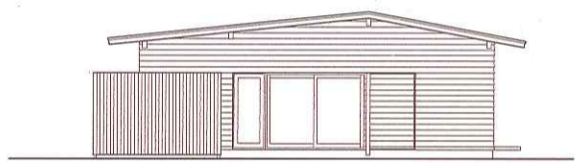
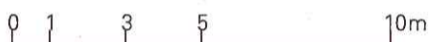
内部仕上げ

床1： 杉無垢板張りア15 OS
 床2： モルタル金コテ
 壁1： PB 12.5 チャフウォール塗り
 壁2： タイル貼り
 天井： PB 9.5 チャフウォール塗り
 造作家具： とどパネル
 設備建具： とどパネル

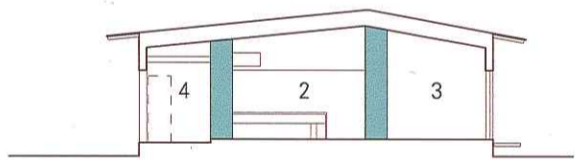
暖房： イゼナ アクアレイヤー
 照明： ENDO・YAMAGIWA・MAXRAY・DAIKO
 衛生： T-FORM・INAX・CERA TRADING
 キッチン： 杉集成材 大工製作



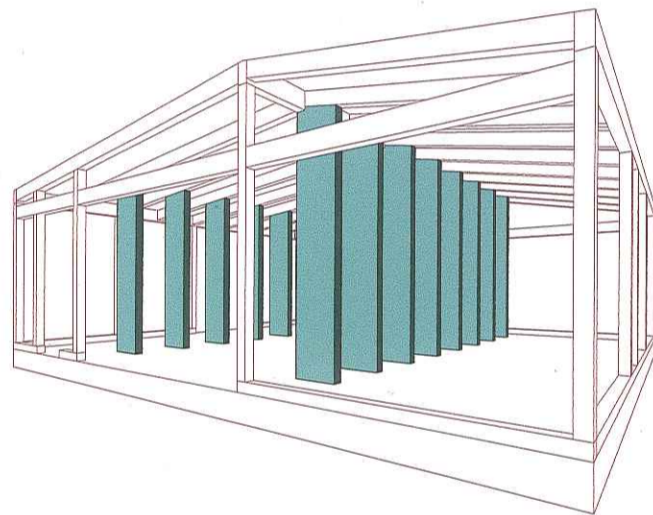
1st FLOOR



SOUTH



SECTION



STRUCTURE PERSPECTIVE

三世代の親子が河川拡幅整備により近くの同じ敷地内にそれぞれ家を建てることになった。旧家を移築改修した立派な日本家屋に祖父母が住みその庭を拝借して家を建てる、孫世代の若い夫婦のための住宅である。母屋に対して敬意を払い、建物の存在をできるだけ抑えること、また風格ある瓦屋根に対して下屋のようにバランスをとれるよう、木造平屋による現代風"離れ"として応えた。若い夫婦の生活の変化に対応するため、個室はつくり回遊できる連続した間取りとし、玄関土間から向こう側の庭へ抜けた空間は、昔の広い土間のようなものである。収納を兼ねた扁平の柱は、その方向性に力強いリズムを与えている。また軽い屋根は天井を仕切らず、流れ方向につながりを持たせていて隣の気配を感じさせる。外壁には唐松の下見張りをオイルステインで黒く仕上げ、木の表情を残しながら建物の存在を抑える役割をしている。室内の木部も黒く仕上げ、表情に統一感を出して白と黒のメリハリを利かせた空間に仕上げている。この家に使用した木材は突板などの貼りものではなく、無垢材や集成材・とどパネルといった板状のものを使っている。これは経年変化に耐えうる建築にするため、また木という素材がもつ強さや質感、量感といったものを表現したかったためである。現代風の木造として、また現代風"離れ"として、まわりとの釣り合いを取りながらも、力強く存在感のある住宅になった。

